

連載コラム

みずき野と その周辺の 植物と昆虫

第4回

花に来る虫たち—ハナバチの仲間



本吉總男

みずき野とその周辺の植物と昆虫

(4) 花に来る虫たちーハナバチの仲間

種子をつくる植物、すなわち種子植物では、植物から植物へ花粉を伝搬させるために、風を利用するもの（風媒）と昆虫を利用するもの（虫媒）があります。風媒を行う植物の花は虫を呼ぶ機能がありませんが、虫媒を行う植物の花は、花卉（または萼や苞葉）を目立たせ、蜜や香りの成分を分泌し、虫を呼び寄せる工夫をしています。虫媒花には人の目にも美しいものが多くあり、園芸の対象になるものも少なくありません。

一方、蜜を求め、お礼に花粉を伝搬する主な虫たちにはハチ、アブ、チョウ、甲虫の仲間などがあります。なかでもとくに花粉の伝搬に役立っているのはハチとアブの仲間です。

花に来るハチは、ハナバチの仲間と狩人バチ・寄生バチの仲間に大きく分けることができます。前者は、花から蜜と花粉を集め、幼虫に餌として与えるハチの仲間、後者は他の昆虫を幼虫の餌にするハチの仲間です。



日本ではどちらもハチと総称しますが、欧米では、ハナバチの仲間を総称して **bee**（ビー）とよび、狩人バチ（スズメバチ、アシナガバチ、ジガバチなど）や寄生バチ（ツチバチ、ヒメバチなど）の仲間を **wasp**（ウォスプ）とよんで区別しています。前者と後者は形態も習性もかなり異なっているので、欧米の方が理に適っているように思います。

今回は、みずき野周辺の花の上に観察されたハチのうち、ハナバチの仲間を紹介しましょう。

ハナバチには、ミツバチ、マルハナバチ、クマバチ、その他たくさんの種が含まれています。体や脚に生えているたくさんの毛は花粉の捕集に役立っています。



(1) ミツバチ



セイヨウミツバチとウメ
2月中旬 わが家の庭

セイヨウミツバチは明治時代以降日本に移入され飼育されるようになったミツバチです。自然環境では巣を造ってもオオスズメバチに攻撃され、ミツバチが全滅してしまうため、通常野生のものはいないとされており、また巣からの行動範囲は数キロですので、みずき野周辺で見かけるセイヨウミツバチは、この範囲内のどこかで飼育されているものと思われます。在来種で、セイヨウミツバチより少し小型の黒っぽいニホンミツバチは木の洞などに巣を

つくりますが、みずき野周辺には見当たりません。



(2) マルハナバチの仲間

マルハナバチの仲間は、秋に雄バチと交尾した女王バチが土の中のネズミの古巣などの中で越冬し、春になると産卵し、生まれてくる働きバチと家族生活を営みます。みずき野周辺の花の上に見られるのは、クロマルハナバチ、トラマルハナバチおよびコマルハナバチの働きバチで、ミツバチより大きく、どれもむくむくした可愛いすがたのハチです。英語名は **bumblebee**。



クロマルハナバチとシャリンバイ
5月中旬 もものき公園



リムスキー・コルサコフの「熊ん蜂は飛ぶ」として知られている曲は **“Flight of the Bumblebee”** ですから、クマバチ (Carpenter bee) ではなく、本当は「マルハナバチは飛ぶ」です。マルハナバチがせわしなく、花から花へ飛び回るすがたを彷彿させる曲です。

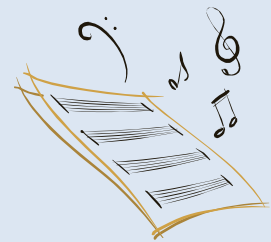


ニコライ・アンドレイェヴィチ・リムスキー＝コルサコフ

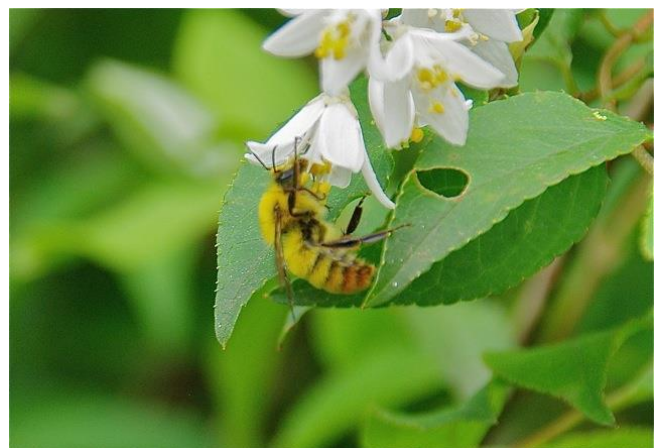
1844 年 3 月 18 日～1908 年 6 月 21 日

ロシアの作曲家。色彩感あふれる管弦楽曲や民族色豊かなオペラを数多く残す。

代表曲：交響組曲『シェヘラザード』
『スペイン奇想曲』など。



トラマルハナバチとホトトギス
10月下旬 わが家の庭



コマルハナバチとウツギ
6月上旬 第2調整池 北隣接地



(3) クマバチ

クマバチは何といっても大きなハチですからよく目立ちます。こわそうに見えますが、よほどのことをしない限り、人を攻撃することはありません。クマバチはナノハナにも来ますが、草花よりもフジやウツギのような木の花を好みます。春に雄バチと交尾した雌バチは初夏の候、強いあごを使って枯木や材木や木造建築物の柱や壁に直径 2.5 センチ、長さ 15 センチ以上の孔を掘り、孔の奥に花粉団子を作り、その側に卵を一つ産み、口で練り合わせた木屑を使って、花粉団子と卵を囲い込み、小部屋にします。一つの巣には一列に並んだ 6～7 個の小部屋があるそうです。孵化した幼虫は親が貯えた花粉団子を食べて生長します。クマバチの英語名 **carpenter bee** (大工バチ) は木材を利用して巣を造る（つまり家を建てる）ことから付けられた名です。



クマバチとナノハナ
4月上旬 本町地区



(4) 小さなハナバチたち

マルハナバチより小さなハナバチには、ヒメハナバチ、コハナバチ、ハキリバチ、ムカシハナバチなどの仲間がおり、非常に多数の種があります。みずき野周辺の花の上にもたくさんの種が見られます。

なかでもおもしろいのは **ウツギノヒメハナバチ** です。ウツギの花（ウノハナ）が咲く頃、土の中に造られた巣の中から大量のハチが飛び出し、新しく土のなかに孔を掘って巣造りをし、ウノハナだけからの花粉と蜜を集め、巣に運び、花粉団子を作ってそこに卵を産みます。

そしてウノハナが終わる頃には、親は死に絶えます。巣の中で孵化した幼虫は蜜で固めた花粉団子を食べて育ち、翌年のウノハナの咲く頃、新しい成虫が地上に姿を現します。



ウツギノヒメハナバチ
(またはコガタウツギノヒメハナバチ)
とウツギ 5月下旬 どんぐり公園

あさごし
兵庫県朝来市山東町にある楽音寺の境内にはウツギノヒメハナバチの巨大な営巣地があり、県の天然記念物に指定されているそうです。

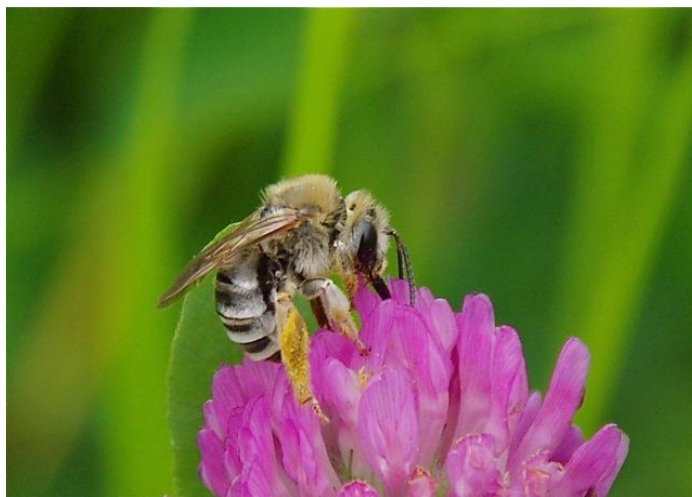


5月下旬～6月上旬に成虫となり土から飛び出し、ウツギの花粉と蜜を求めて20万匹のウツギノヒメハナバチが一帯を乱舞する様子は“初夏を告げる風物詩”としても有名。

ウツギノヒメハナバチの近縁種にやはりウノハナの時期に発生しウノハナに集まるコガタウツギノヒメハナバチがあり、両種は大きさと顔つきに多少の違いがありますがたいへんよく似ています。掲載した写真では残念ながら区別が付きません。そのほか、アシブトムカシハナバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、アオスジハナバチの写真を載せておきます。



アシブトムカシハナバチとキク
11月上旬 上高井地区



ニッポンヒゲナガハナバチとアカツメクサ
5月下旬 第2調整池

アオスジハナバチは腹部に青い線の入ったハナバチ。わが家のグリーンカーテンのゴーヤの花にやってきました。これが初めての出会い。ぜひ、もう一度会ってみたい美しいハナバチです。



アオスジハナバチとゴーヤ
7月下旬 わが家の庭

2014 年 7 月
本吉 総男

